

## 東京大会に臨むアスリートたちに向けた社会的行動に関する入門ガイド

2020年2月28日発行



(写真説明：インドのキラン・リジジュ (Kiren Rijiju) スポーツ担当大臣に本学の江上いずみ客員教授が着物を着せているところ)

(ニューデリー) 日本では着物を着た女性の既婚、未婚をどのように判断するのでしょうか？箸を使って料理を食べる方法は？お風呂で困った経験がある？ご心配なく！2020年2月27日(木)にニューデリー(インド)で「おもてなし」と呼ばれる日本文化理解のためのワークショップが開かれました。技術的に難しい着物を着る方法やお辞儀の種類といった話題が取り扱われました。インドスポーツ省が開催し、ワークショップは筑波大学 TIAS アカデミー長の真田久教授、講師の江上いずみ客員教授によって実施され、プニア・バジラン氏やマヌー・バーカー氏といったオリンピックに臨むアスリートたちが日本文化を学びました。

ワークショップでは、日本の伝統衣装である着物は袖の長さで、結婚しているかどうか分かるという説明がありました。袖が長い着物(振袖)を着ている女性は未婚を意味します。会場が笑いで包まれた別のセッションでは、日本のお風呂や温泉でのエチケットについても講義がありました。

アスリートたちは終始一生懸命ノートを取っていました。また、公共交通機関でのマナーや、切符(交通系 IC)のシステム、日本に行く前に覚えるべき日本語の基本フレーズや、食事時のマナーに関する情報もありました。体験セッションでは、アスリートなどスポーツ関係者たちが、状況によって異なる日本でお辞儀(会釈・敬礼・最敬礼)の方法を学びました。

「日本の伝統的価値はとても高いが、それを尊敬することは我々の役目です。インドのアスリートたちは自身だけでなく、国を代表する存在でもあります。トイレやお風呂でのマナーや交通公共機関の使い方といったことをわかっていないと、トラブルや精神的苦痛につながります。このワークショップは彼らに日本で過ごすための基礎を教えてくださいました。」と、キラン・リジジュ (Kiren Rijiju) スポーツ担当大臣がコメントしました。